

人むすびの場

第6回テーマ

“次の一手！～今年を振り返り、来る年を展望する～”

日時	平成20年12月18日(木) 午後7時～9時
会場	スペースU
企画運営	“人むすびの場”づくり企画運営チーム

“人むすびの場”をともに創りませんか？

- 「むすひ(産霊)」とは、ものを生み出す力のことを表す古語です。場には、不思議な力が宿ります。何か生まれ行くエネルギーに満ちています。
- “人むすびの場”は、人と人の思い、能力・スキルを結び合わせ、創発のパワーを発揮して、新しい共生(ともいき)の世界を切り拓いていく、つながりづくりの場を意図しています。
- 私たちの世界は、「人と自然」「人と人」のつながりが薄くなり、様々な問題を抱えています。でも世の中には人財、知恵もそこかしこにあり、結び合うことで問題解決のパワーも生まれてくるに違いありません。
- そのため、お互いの思いと知恵を分かち合う対話と創発の場を一緒に創っていきませんか？
- 場を活かし、つながりを創り、行動していきたい！ こんな思いをつなぎ、今まで自分のやりたかったことに、さらに発展的に取り組むきっかけづくりにしていただけたらと思います。
- “人むすびの場”を、単なる勉強会や異業種交流会とは考えません。「生きがい」とか「やりがい」とは何か、ちょっとしたことから世の中がよくなったら嬉しい・・・このような思いを分かち合うことから、何かが変わることを信じている人々の集まりにしたいと思います。
- 「人むすびの場づくり企画運営チーム」へも是非ご参画ください。新しいアイデア・企画の提供などもろもろご意見をお待ちします。



プログラム

- 19:00 ◆オリエンテーション
“人むすびの場”づくり企画運営チーム 高重 和枝
- 19:05 ◆ゲスト報告会「次の一手」
鈴木賀津彦さん・生重幸恵さん・菊池 健さん
- 19:40 ◆ワークショップ
ファシリテーター 角田友行さん
- 20:55 ◆本日のまとめ
- 21:00 終了
交流会(うさぎ)

「ゲスト報告会：今年の成果と次の一手！」



スピーカー：生重 幸恵さん・菊池 健 さん

コーディネーター：鈴木 賀津彦さん

- 生重さんは、公教育の支援として、「学び」が社会とつながって、子どもが大人とホントの出会いができるよう、経済産業省や文部科学省など行政ともつながって、プログラムを提供していきたい！
- 「生きる、学ぶ、働くを、大人と子どもが考えるメディア『東京JobJob』」の発行を産業界からの支援も募り、全国に広げて、地域の自助努力を応援したい。
- 菊池さんは、メディアでも「ガイアの夜明け」「情熱大陸」「カンブリア宮殿」など、社会起業は注目されてきてはいるが、まだまだなので、社会起業家の仲間を増やしていきたい！
- 第2回目のゲストの脇坂 真吏さん（〈農〉「都市と農村をつなぐ」）は、1年間に12回の就農体験を学生に提供するなど事業が成長し、「農家の子せがれネットワーク」という取り組みを仲間とはじめたようです。

7月から6回重ねてきて、つながりが深まってきました。
まずは、こうして回を重ねてきたことが何よりの成果だと思っ
ています。

相互の連携を深めながら、ぜひ、この場からいろいろな成果
を生み出していきたいです！



第1回 つながるために情報発信しよう！ 鈴木賀津彦さん



◆「市民メディア」 「住民ディレクター」に学べ！ 市民メディアの時代

～私たちが情報発信者になる～

皆さんは「メディア」にどんなイメージを持っていますか。多くの方が「メディア＝マスメディア」というイメージにとらわれているように感じます。その概念を一度壊すことが必要だと考え、「私たちがメディアだ」と、いつも強調しています。もう一つのメディア、「市民メディア」に注目してください。市民メディアはこれから、社会的にますます大きな役割を果たすようになります。

◇ ◇ ◇
メディアというと、大手の新聞やテレビ局などのマスメディア、マスコミのことを考え、メディアに対して自分たちは「情報を受け取る側」であると思いませんか。読者、視聴者という言葉に表されるように、新聞は読むもの、テレビは見るものという固定観念にとらわれているようです。確かに、これまではそうだったかもしれません。でも今は、ちょっとパソコンをいじればインターネットにつながり、誰もが情報発信できる時代です。テレビも、ただ見るだけではなく、「出るもの」だったり、誰もが「番組をつくる」ことができるようになってきました。

まず、皆さんの持っているメディアのイメージを壊すところから始めましょう。これからのメディアのあり方を考えるとき、私たち自身が「情報発信者」になる、新しい多様な市民メディアをつくる「実践」が必要になってきています。

これからは「市民メディアの時代」です。「住民ディレクター」って、聞いたことはありますか。実は今、地域の問題を地域の人たちが自らテレビ番組のディレクターになって映像情報を発信する「住民ディレクター」の取り組みが、地域を元気にする仕掛けとして全国的に注目さ

れ、広がっているのです。熊本県山江村で始まった「住民ディレクター」の活動が起爆剤になり、共感する人たちが自分たちの地域で取り組み始め、今では各地の住民ディレクター同士が交流し合うなど盛り上がっています。

「地域づくり」で言えば、これからは住民自らが地域を盛り上げる活動に参加する「当事者意識」が欠かせませんが、それを創り出していくには、地域住民が情報を共有したり共通認識をつくる必要があります。そのためメディアが求められています。多くの人々に知ってもらいたいことがある時、マスコミに「取材してください」「記事にしてください」と頼むのではなく、私たち自身で情報発信することが大切で、それが今後の「市民社会」での「地域力」のバロメーターになると言っても過言ではないでしょう。

自らの情報を発信すると、そこから「共感」が広がり、発信者自身が元気になるります。コミュニティも同様で、情報発信すると、そのコミュニティはますます元気になるります。「市民メディア」はみんなを元気にしています。

一方で、マスメディアの側も「発信者」と「受信者」の双方向性が重視されるようになり、読者参加、視聴者参加型の記事や番組が増えてきています。そうした中で、「市民記者」が登場して、これまで受け手だった人たちに取材してもらうような関係もできています。マスメディアも「市民メディアとの連携」なしには、やっていけない状況も生まれており、その連携のあり方がそれぞれのマスメディアの将来展望をも左右している訳です。

多様な情報発信をすることが、実に楽しい時代なのです。市民メディアが世の中を変えていることを、私たちの周りから探してみてください。そんな視点で、激変する21世紀のメディア状況をとらえていけるように考えています。

(ジャーナリスト 鈴木 賀津彦)

【略歴】市民メディアプロデューサー。新聞記者の仕事のかたわら、教育、福祉、環境問題などを通じた地域おこし・まちづくり活動など、各地の市民活動にかかわる。市民がメディアを使って新しい地域ネットワークづくりに取り組むなどの、まちづくりでのメディアの役割を重視、地域における「当事者としての新聞」のあり方を模索中。日本ジャーナリスト会議運営委員、日本NPO学会会員

第2回 「都市と農村をつなぐ」 脇坂 真吏さん



日本の農業をもっと元気にしていきたい！

30年後には、小学校の職業希望ランキング1位が「農業」になることを目指しています！

- 在学中に立ち上げたアグリベンチャー企業は、“若い力で農業を盛り上げる”をモットーに、農業に興味のある学生・若者を対象に都市と農村をつなぐ人材育成事業を中心に地域活性化に取り組んでいます。
- 農業をやりたいという意欲があっても、情報がなくて、就農へのきっかけのない若者は多くいます。
- 情報を流すためにフリーペーパーSATTという情報誌を会員に発信しています。
- そこで、農業をやりたい学生の発掘と育成を目的に「大学生への農業経営学習プログラム」を展開中。参加している学生の6割は農業系の大学ではありません。
- 目指すは「きつい、汚い、稼げない」というマイナスイメージの3Kから「稼げる、感動がある、格好いい」の憧れの3Kへの農業への転換です。

【活動風景】



【略歴】株式会社NOPPO 代表取締役。
東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科卒業。在学中、野菜ソムリエの店FFの立ち上げを行い、店長やネット販売担当などを経験。「日本の農業をもっと元気にしていきたい！」との思いから、卒業間近の2006年3月に会社を立ち上げ、現在に至る。“若い力で農業を盛り上げる”をモットーに、農業に興味のある学生・若者を対象に都市と農村をつなぐ人材育成事業を中心に地域活性化に取り組んでいる。

第3回 「大人の為の社会起業家講座～世界の潮流、そして日本～」

菊池 健さん



2020年に、日本、そして世界で、障がい者マッサージ師の1万人の雇用を創出します。

- 社会起業家のコンサルティングと社会貢献という基盤を持つ「オフィス・マッサージ手がたり」の営業統括をしています。
- 社会起業家は、社会の課題をビジネスの手法で解決する人です。「ソーシャル・イノベーション(社会的単位の新しい工夫)を起こしているか」が鍵です。
- 世界にはベンチャー・フィランソロピーの新しい資金の流れがありますし、国内の中間支援組織が社会起業の支援をしています。
- 「オフィス・マッサージ手がたり」は、最近、うつ病が企業でも問題になっている中、身体をほぐすと心もほぐれるということで、企業の福利厚生としてオフィスへの国家資格を持つ視覚障がい者などのあん摩マッサージ師の派遣をしています。
- マイナスに考えるところを、強みと捉える逆転の発想で事業を伸ばしてきました。
障がいがあるから、手間がかかる？店舗がないから、知られないの？二人一組で動くので高いの？



【略歴】(有)フォレスト・プラクティス 代表取締役副社長
1973年東京都生まれ。日本大学理工学部機械工学科卒業後、機械専門商社(1997-1999)、プライス・ウォーターハウス・クーパーズ・コンサルタント(2000-2004)、ITベンチャー(2005-2007)を経て、2007年10月に(有)フォレスト・プラクティスに入社、同年、12月に同社代表取締役副社長に就任。オフィスマッサージ「手がたり」ブランドの営業と現場を統括している。

第4回 「子どもたちの学びの応援 ～仕事体験のプロデュース～」



生重 幸恵 さん

子どもが親を変えるんです！

- 杉並区立小・中学校などの学校教育コーディネーターとしての活動を通して、子どもたちが、ニート、フリーターにならないように、心豊かな子どもの育成に関わる、これからの学校のカタチを考え、実践しています。
- 身近な地域の人々、社会、自然との関わり合いが大切で、地域の人材をつなぎながら、総合的学習の中で、子どもたちにホンモノの職業人との出会いをコーディネートしています。
- また、夢をかなえた大人に出会う、「ドリームズ・カム・トゥルー」や、職場体験を子どもたち自身がまとめたフリーペーパーJobJobの発行など、子どもたちが将来どんな職業につきたいか、自分の方向性を見つけることに役立つキャリアコーディネートにも取り組んでいます。
- 地域の中で、かづくで場をつくる必要があります。
- 大人が子どもの育ちを見守り、声をかけていくことや、親が自分を見せていくことが大切。
- 現役のおとなをつないで、「学びあう、補い合う」場をつくる。

【略歴】(特定非営利活動法人 スクール・アドバイスネットワーク 理事長)

杉並区内のPTA会長経験者とともに、平成14年に、「学校教育支援における地域活性化」を目的とするNPO法人を設立。杉並区教育委員会、東京都内各区の教育委員会とも連携。

さらには全国各地での「学校支援」「地域活性化」のプロジェクトに参画して、活動の範囲を広げ、平成19年には内閣府の地域活性化伝道師に任命された。

企業の持っているノウハウを学校授業に繋げるためのプログラム作成なども手がけている。



第5回 「一人ひとりが世界を変える」 関根 健次 さん



パレスチナで痛感したこと

- ・子どもが子どもらしい夢を描ける世界を創りたい！
- ・戦争や紛争が起こらない世界を創りたい！
- ・世界の問題解決をしたい！

だけど、みんな起こっていることを知らない

- 「人と人をつないでいき、力を合わせてよりよい世界を創っていきたい！」という思いで、一人ひとりの善意をITを通じてつないでいく「イーココロ！クリック募金」「署名TV」などの仕組み、活動を立ち上げています。
- 「イーココロ！クリック募金」(ekokoro.jp)は、ネットをクリック、お買い物、資料請求などをするだけでNGO/NPOに募金できるサイトです。1クリックで1円募金ができます。2008年実績で3000万円の募金ことができました。
- 構造的な貧困を解決するには、仕組みを変えないといけないが、変えられない。
- 「署名TV」はネットで署名集めや署名参加ができるサイトで、「想いを伝え、社会を変える」ために活用、政策提言、広報活動、社会変革につなげます。いま、大きな反響を呼んでいます。
- 「自分の幸せからみんなの幸せへ」と人生に向き合っていく必要があります。
- 来年の4月以降、インターネット放送局を持ち、「世界の今」を伝えていきたい！

【略歴】(ユナイテッドピープル株式会社 代表取締役)

1976年生まれ。ペロイト大学経済学部卒業(アメリカ)。卒業後、帰国し、主にIT業界に身を置く。2002年に起業。学生時代に紛争地、パレスチナを訪問したことがきっかけで、戦争・紛争、饑餓・貧困、人権、環境問題など世界の問題解決を目指すソーシャルビジネスを開始。2007年より社会的企業や社会起業家を応援するソーシャル・イノベーション・ジャパン(SIJ)フェロー。





ワークショップ



ワークショップ

「来年への思いを語り合い、参加者全員で寄せ書きしました！」



皆さん、一緒に場をつくってくださってありがとうございました。